

ダイドーグループホールディングスが減損損失を計上ー今後の国内飲料事業の業績動向を注視

以下は、ダイドーグループホールディングス株式会社（証券コード：2590）の 26/1 期業績予想の修正についての株式会社日本格付研究所（JCR）の見解です。

■見解

- (1) 当社は 2 月 16 日、26/1 期業績予想を下方修正した。国内飲料事業の主力の自販機チャネルにおいて収益性が低下し、自販機等の事業関連資産の 298 億円を減損損失として計上する見込みである。26/1 期の親会社株主に帰属する当期純損益は従来予想である 30 億円の赤字から 307 億円の赤字へ大幅に下方修正された。
- (2) 今般の最終赤字によって自己資本が約 3 割毀損することとなり、財務構成の悪化が見込まれる。また、飲料の販売数量の減少やコーヒー豆をはじめとした各種原材料価格の高騰の影響により、26/1 期の国内飲料事業は営業損失となる見込みであるなど、収益力の低下が顕著である。JCR は本件をもって直ちに格付を見直す必要はないと判断しているが、今後、国内飲料事業の業績動向を確認の上、格付に反映させていく。

（担当）井上 肇・三浦 麻理子

【参考】

発行体：ダイドーグループホールディングス株式会社
長期発行体格付：A- 見通し：安定的

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官（格付）第 1 号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル